

Eternal brilliance

～ローマの休日、アン王女の衣装から着装を得たオートクチュール作品制作～



滝澤研究室 川端萌香

1. Design&Concept

本制作のテーマは「ローマの休日」。オードリー・ヘプバーン演じるアン王女の衣装から着装を得て、女性が強く美しくなれるような、輝きをイメージして制作を行った(図1)。

テーマが決まり、リサーチやマインドマップを行いムードボードを作成した。そして、ムードボードを基に100体のデザイン画を描き、その中からテーマとコンセプトを最も表現できる1体を制作する事とした(図2)。



図1 完成したムードボード



図2 制作する事にしたデザイン画

2. Bustier

身体にぴったりとフィットするビスチエを作成する為に、3次元人体計測を行い、被験者の3D体型データを採用した。そしてアパレルCADソフトのクリアコンポイトルソー、パターンマジック(東レACS社製)を用いてビスチエのパターンを設計した(図3)。パターン完成後、本布のベンパートナーを2重にした状態で、糸印、仮縫い、試着・補正を行った。そしてシルエットを保形させる為にボーンを6本入れ最後にオープンファスナーを取り付けビスチエの完成とした(図4)。

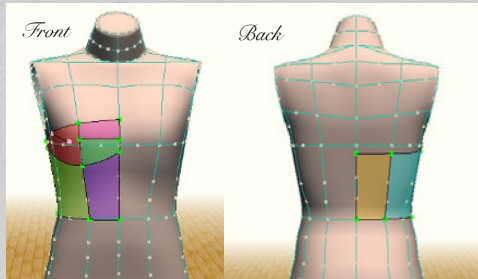


図3 ボディ上で展開したビスチエのパターン



図4 完成したビスチエ

3. Pannier

ドレスのスカート部分は膨らみを出す為、パニエを制作した。はじめに、パニエのパターンをウエストから裾まで5等分(図6中に明示)し表と裏を縫い合せボーンを入れる位置に2cmのステッチをかけそこにボーンを合計5本通していった(図5)。

次に、デザイン画通りのボリューム感になるように、ソフトチュールとハードチュールにギャザーを寄せたものをヒップの部分が1番膨らむようにし手縫いで縫い付けた。最後に共布でベルトを制作し、スプリングホックを取り付けパニエが完成した(図6)。



図5 ボーンを入れている様子



図6 完成したパニエ

4. Pattern

ビスチエとパニエを装着させた状態のボディの上からデザイン画を基にカッティングラインを入れ、立体的断法により、パターン設計を行った。スカートはヒップが膨らみを持つデザインのため、ボディにそのシルエットの土台を取り付けた(図7)。半身パターン完成後、両身パターンを作成し、補正を加え、パターンが完成した(図8)。



図7 スカートのシルエットの土台作りの様子



図8 完成した両身パターン

5. Works

リボンモチーフにしたオフショルダーのパーツは、ドレスと同生地であるブライダルサテンを使用した。後ろに均等に3つのドレープを入れ(図9)、本縫いの際には形を保持させる為に裏側から緩めにまつりをし、留めた(図10)。1工程ごとに馬の上で、アイロンで縫い代を割った(図11)。リボンの真ん中は、縫い目が表から見えないようにセンターパーツを奥まつりで縫い包んだ。



図9 ドレープのパターン設計の様子



図10 緩くまつり縫いをしている様子

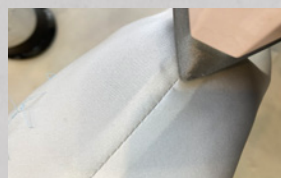


図11 縫い代をアイロンで割っている様子

仕上げとしてロゼットと3連のビーズ飾りを作成した。1本の繋がったテグスにビーズを通したものを2本制作し、デザイン画のバランスと照らし合わせながら配置を決め、透明の糸を用いてリボンの裏側に6箇所縫い留め(図12)、オフショルダーのパーツを完成させた(図13)。ロゼットは直径8.5cm、9cm、10cm、13.5cmの円に裁断したタオルを用意し、どの大きさがドレスに合うか比較・検討を重ねた。その結果、9cmの円をロゼットの大きさを採用し作成した(図14)。



図12 ビーズを縫い留めている様子



図13 完成したオフショルダーのパーツ



図14 完成したロゼット

6. Conclusion

本制作を通し、自身がテーマ設定、リサーチ、コンセプトの決定、デザイン展開、カラー展開、制作を一貫して行った。工程を進めていく中で、テーマからデザインが離れていないか何度も確認、検討を重ねた。また、高度な技術を必要とするオートクチュール技法は、とても細かく、繊細な作業で大学の授業で学ぶ技術よりも圧倒的に難しく、一つ一つの作業に非常に時間がかかり苦労したが、困難も試行錯誤しながら制作を進めていく事で、作品の完成度を上げると共に、自らの技術の向上に繋がったと考える。

